



府中国際交流サロン
FUCHU INTERNATIONAL SALON

くろすろ〜ど

2025/2月号 第300号

かい ほう し
会報誌

★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★



★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

〜サロン月間カレンダー2月〜

■日本語学習会

日時：2月3日(月)～2月28日(金)
月(午前・午後) 水(午後) 金(午後・夜)

場所：会議室・学習室ほか

*土曜学習会は以下の日程です。

日時：2月1・8・15・22日 午後2時～4時

場所：会議室ほか

■実行委員会

日時：2月12日(水) 午前10時～昼12時

場所：学習室

■文化交流部会・生け花教室

日時：2月21日(金) 午前10時～11時半

場所：工芸室

定員：8名(参加費800円)

申し込み締め切：2月17日(月)

■フチュール休館日

2月11日(火・祝)、26日(水)は、フチュール全体
がお休みです。学習会もお休みです。

*以上の件について、詳しいことはサロン事務局で
聞いてください。



『くろすろ〜ど』が300号を迎えました

月刊会報誌『くろすろ〜ど』が、この2月号で300号を迎えました。『府中国際交流サロン』創設(1995年・平成7年4月)の3ヶ月ほど後の7月9日に、『くろすろ〜ど』の前身となる会報誌『ケヤキ並木』が誕生しました。数名の有志ボランティアが編集を担当し、A4版サイズ、20～24頁仕立て(内容の8割ほどは、学習者とボランティアの自己紹介メッセージカードの掲載)で、年に2～3回発行し、終了する2000年(平成12年)1月までに、計14号を発行しました。

一方、1997年(平成9年)11月に瓦版『くろすろ〜ど』(月刊)が創刊されました。創刊から2年余の間は、二つの会報誌が存在したことになりますが、2000年2月からは、会報誌は『くろすろ〜ど』に統一され、8月を除く年間11ヶ月発行の月刊会報誌(8～12頁仕立て)としてスタートしました。

『くろすろ〜ど』という名には、「人と人、文化と文化が会合う十字路(crossroad)」という思いが込められ、その理念に沿ってボランティアと学習者の皆さんの交流の場を目指す誌面作りは、1997年11月の創刊からこの300号まで、連綿として続いています。300号を迎えられたのも、ひとえに原稿を寄せてくださり、熱心に目をとおしてくださった皆様のご協力の賜物と思っています。これからも学習者とボランティアの皆様の心の拠りどころとなり、そして世界の文化がいっぱい詰まった誌面作りに励んでいきたいと思っています。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。(編集長・和田)

世界の文化

「日本語学習発表会の原稿を紹介」

2024年12月14日(土)に、日本語学習発表会がありました。そこで発表された内容を随時、紹介します。

「今の私は、日本語の勉強、一筋！」

ララ・アレハンドロ (フィリピン)



私の名前は、ララ・アレハンドロです。フィリピン人です。

私は、8年前に結婚しました。彼女はフィリピン人と日本人のハーフです。7年前、妻と私は日本に移住することを決めました。理由は、彼女が小さい頃、日本で8年間過ごし、その日本でのライフスタイルが恋しかったからです。でも、私は少し躊躇していました。なぜなら、その時、私はアメリカに行きたいと思っていたし、日本で仕事が見つかるかどうか不安だったからです。しかし、最終的に私たちは日本に移住するのが最善だと決めました。

7年前、私たちは日本に到着し、アルバイトをしながら日本語を学ぶ努力をしました。その時も、府中駅近くの国際交流サロンで日本語を教えていただきました。おかげで最終的にN4レベルまで達しました。

日本での生活は大変なこともありますが、多くの機会を与えてくれました。日本の食べ物、電車、建物、自然、そして清潔さが気に入っています。人々はとても礼儀正しく、もちろんアニメやマンガも楽しんでいますし、古いお寺を見るのも好きです！

しかし、4年前に、IT業界に戻ることを決め、イギリスの企業に就職しました。バックエンド開発者として採用され、完全リモートで自宅から仕事をしていました。残念ながら、仕事では英語し

か使わないため、今まで覚えていた日本語のほとんどを忘れてしまいました。仕事は好きですが、日本に長く住むためには、再び日本語を勉強する必要があります。ことは分かっています。

今年の6月に永住権を取得できたことをきっかけに、日本語の勉強をもう一度しっかりやってみようという気持ちになりました。そこで、先月、国際交流サロンで日本語のコースに申し込み、勉強を頑張ろうという気持ちでいっぱいです。

私の目標は、今まで勉強してきた日本語の中身をすべて思い出し、来年N3とN2の試験に合格することです。試験に合格できるという期待はあまり持っていません。それらは理想的な目標です。もしかしたら失敗し、2回試験を再受験しなければならないかもしれません。それでも問題ありません。今はプロセスを楽しんでいます。

今、サロンに、月曜日の午前と午後、水曜日、金曜日の午後と夜の週5回通っています。いずれ良い学習習慣が身につくと思います。これはマラソンのようなもので、最終的には目標を達成できると信じています。

以上です。よろしくお願いします。

「日本語学習発表会の司会を担当して」

グレアム・レベッカ (オーストラリア)



府中国際交流サロンの日本語学習発表会で司会者をした私には、司会者の役割が初めてなので、色々な準備が必要でした。その中で主な一つは事前に発表者の皆さんにインタビューすることでした。

発表会に参加した皆さんは様々な背景をお持ちですが、共通するのは日本で生活するために大変頑張っているということで、それがわかって、私は感動しました。その方々を紹介するのは光栄でした。

そして発表会ができるためにボランティアさんたちも背景で大きな支援をしてくれることがわかるようになりました。特に毎週毎週相手にしてくれる鈴木さんがいなかったら、私が締め切りに間に合わなかったと思います。鈴木さんにも、府中国際交流サロンのボランティア皆さんにも、支援してくれたことに心から感謝しております。

去年自分も発表者として発表会に参加させていただきましたが、今回は司会者としての参加で、まったく違う経験になりました。確かに、発表者としても、人の前に立って喋るので、ドキドキしますが、その時は失敗しても恥ずかしくなるのは自分のことだけでしょう。一方、司会者として、発表者の方に対して重たい責任を感じて、今回は大変緊張しました。それに敬語を使うことも苦手な私は不安を感じました。それでも、司会役としては、なんとなくできたのですが、実はまだまだ自分の能力に納得していません。もう少し敬語や丁寧な日本語の勉強しておきたいと思います。きっと、それは将来にも役に立つでしょう。

発表会に参加することはもちろん簡単ではないのですが、チャレンジすることで、日本語の勉強になるし、素晴らしい経験になるので、府中国際交流サロンに通ってる皆さんにお勧めです。「私、そういうことなんてまだできない」と思っている、心の準備をしていなくても、頑張ってみたら、その経験を経て、日本語の能力が向上すると思います。ぜひ、今年こそ、参加してみませんか？



みな

がくしゅうしゃしょうかい

皆さんよろしく◇学習者紹介

にほんご かんこくご つか しごと
「日本語と韓国語を使う仕事をやりたい」

イ・スジンさん (韓国)



わたしは、韓国のテグ市の出身で、2024年9月24日に来日しました。府中国際交流サロンに来たのは、2024年10月2日です。

来日の理由は、人生は長いから若いうちに他の国にも住ん

でみたい、伝統的な文化を体験したいと思ったからです。色々な国の中で日本が1番、気になって選びました。気になった理由は、アニメの『鬼滅の刃』です。主人公の「任せろ!」「ここまでだ!」という決め台詞が印象的です。

学校では、社会福祉士と幼稚園の先生の資格を専攻・卒業し、その後、ワーホリで来日しました。家族は、両親と姉と私の4人です。

趣味は、日本のドラマ(『[アンナチュラル](#)』:石原さとみのファン)やアニメを見ることです。なにわ男子のケントのファンでもあります。

好物は、オムライスとアイスクリームです。日本のオムライスは、トロ玉ですごく美味しいです。下北や渋谷などの評判の店に食べに行きます。アイスクリームは韓国より味が濃く値段も安いです。

自分の性格は、元気で明るいです。

日本の印象は、フェスティバルが多いです。クリスマスは2ヶ月前から始めているし、公園などの家族で過ごす場が充実しています。物価が安いです。

サロンは、全部やさしいです。日本語などが上手になると喜んでくれます。感謝しています。

好きな日本語は「もしもし」みたいな繰り返すことばです。「ご覧ください」にもハマっています。

将来は、航空会社とか翻訳関係で、日本語と韓国語の二か国語を使う仕事がやりたいです。

(聞き書き・末田)

がく しゅう かい 学習会だより



すいよう ご ぎ たの かいはうこく 「水曜午後クラスお楽しみ会報告」

すいよう ご ぎ すえだ けい じ
水曜午後ボランティア 末田 圭治

がつさいご がくしゅうかい かんたん
12月最後の学習会で、簡単なゲームをしましたので報告します。

じゅんび とし ながくしゅうしゃ とうじつ がくしゅうしゃ めい
準備として、学習者（当日の学習者は、18名）に、4～5人が1列で、4列に並んでももらいました。

ゲームの1つ目は、各列ごとに、以下の伝言ゲームを行いました。4)は、難しすぎたのか、途中で違う言葉に変わりましたが、他は簡単だったとの声もあり、正確に伝言されました。

- 1) 好きな言葉は「お疲れさまです」
- 2) 好きな言葉は「いただきます」
- 3) 好きな言葉は「おはようございます」
- 4) 好きな言葉は「お世話になります」

2つ目は、背中に平仮名を1文字だけ書いて伝えるゲームです。異性に書いてほしくない人は、列の並びを変えてもらい開始しましたが、各列で「あ」「い」「さ」「つ」の1文字を担当して伝えたのですが、なぜか「お」「い」「ち」「つ」に変わりました。

概ね、好評だったようで、学習の疲れを癒してリフレッシュし、新年を迎えてくれたら幸いです。



きんよう ご ぎ にぎ 「おにぎりをみんなで握ってみよう！」

きんよう ご ぎ きくた なおみ
金曜午後ボランティア 菊田 直美

ねんまつ たの かいはうこく にほん
年末のお楽しみ会で、日本のファストフードの代表、「おにぎり」を作って食べるイベントを開催しました。事前にみんなからお米と百円の寄付を集め、当日は早めに集まった先輩ボランティアの方々がご飯を炊いて、塩や海苔、おにぎりの具材の梅、塩こんぶ、ツナマヨ、チーズおかか（ベビーチーズとおかかを醤油であえたもの）の4種類を用意し待っていてくれました。

はじ 初めにおにぎりを作るという学習者さんがほとんどの中、ボランティアも身振り手振り、Google翻訳も駆使してのおにぎり作りが始まりました。まずは、お皿に大きめに切ったラップを敷いて、塩をパラパラ。そこにご飯を平らに置いて好きな具材をのせたら、更にその上に薄くご飯をかぶせ、ラップで包んで、丸や三角など好きな形に握ります。最後にラップを外して海苔を巻いたら完成です。



おにぎり作りが初めてで、恐る恐る握っている学習者さんたちに、「ぎゅっ、ぎゅっ、とこうやって握ってください！」と力を込めて説明していると、お互いだんだん可笑しくなっていて、みんなで笑い合いながら作りました。

出来上がってみると、大きさも形も具材も、みんなそれぞれ違ったおにぎりが完成。ふっくらとした出来立てのおにぎりは本当に美味しくて、みんな自然と笑顔になり、口いっぱいほおばって食べました。

「おにぎりをみんなで握ってみよう！」の企画は大成功。ごちそうさまでした！



きくた みぎ
ウイルパダーさんと菊田さん(右)

へんしゅうぶちゅう めい げんこう さくねん がつ きこう
編集部注：2名の原稿は昨年12月に寄稿されたものです。

新ボラさん こんにちわ

「古典文学を読むのが好きでした」

月曜午後ボランティア 本田 友紀

趣味はバードウォッチング、読書、音楽鑑賞、多摩川沿いのサイクリング、そして、おいしいものを食べることです。

小学生の頃、兄の本棚にあった『源氏物語』、『更級日記』、『南総里見八犬伝』等の日本の古典文学をこっそり読むのが好きでした。また、父の転勤で住んだ青森では雪深い津軽半島の冬に開催される百人一首大会に向けて百首を一所懸命に覚えました。そして、知らず知らずのうちに、日本語の美しさ、奥深さに魅了されていきました。その後、中学時代には南米のパラグアイに住みましたが、望郷の念を抱きながら、日本の風習や言語を大切にして立派に現地に根差していらっしゃる日系人の方々、同じようにヨーロッパ、中国、韓国の移住者も自国の伝統文化、言語を大切にし、そして、それぞれの民族がお互いの伝統文化を尊重して暮らしている姿を見て、いつか自分も母語である日本語の先生になりたいと思うようになりました。

ずっと思い続けていた日本語の教師になるべくこの講座を今、受講できてとても嬉しいです。ただ、学習する側から、言語を教える側に頭を切り替えるのがなかなか難しく、また、ヨーロッパ言語の活用型とも国語教育とも異なる日本語教育に慣れるのに最初は目を白黒させていました。今は学習者さんを前にしてスイッチが入った感があります。ボランティアの皆さん、学習者の皆さんと一緒に楽しく活動したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



「『難しいから楽しい』へと熱い思いが…」

金曜夜ボランティア 柴谷 真子

私はここ数年、高齢者の在宅支援のボランティアをしていました。主にお話相手でしたが、買い物やお散歩の同伴もしていました。その方との時間は、ゆっくりと流れる穏やかないい時間でしたが、コロナで活動が長期間中止になったり、活動に制限があったり、最終的には担当していた方が施設に入居されたタイミングで活動が休止となりました。学生時代には、訪日の外国の方々を相手に、神社仏閣を(つたない!)英語でガイドをする活動もしていました。これからも地域に根付いたボランティア活動をしたいと思い、日本語教授法研修会を受講しました。

すぐに、「教える」日本語の難しさに直面しました。その反面、毎回新しい学びの連続で、「難しいから、楽しい!」へと、私の中に、新しいチャレンジに対して、熱い思いが芽生え始めていました。次の学習会の内容を考えたり、学習者さんの国の新聞記事やニュース等にも自然と目がとまります。まだまだより良い伝え方を模索中ですので、山田しげみ先生の教えや、先輩の皆さん、お仲間の皆さんのアドバイスや意見交換を活かしていきたいと思っています。勉強会に来る学習者さんに、「日本語は難しいけれど、わかって楽しい!」と思ってもらえたら嬉しいです。

これまで多くの方々にお世話になった分、今後は自分のもっているもの、自分の時間を差し出して、お返しをする段階に差し掛かっています。そのような思いから、私の学習ボランティア活動が始まりました。今年から趣味で始めたランニング同様、スタートを切ったばかりで、これからは転んだりつまずいたりしながらですが、どうぞよろしくお願い致します。

こんな教え方しています

～ 23 ～

「日本語を楽しんでほしいです」

水曜午後ボランティア 森谷 真名子

毎回どうしたら伝わるかなあと試行錯誤は続いているのですが、ひとつこだわっていることは英語などの媒介語を使わずに教えることです。学習者さんからの要望があったり、初級者や短期滞在の方には難しいのですが、なるべく日本語のみで教えたいと思っています。それはこれまでの私の経験に基づいています。私は長年フランス語圏アフリカに住んできたので、様々なところでフランス語を教わってきました。日本語がわかる先生はいなかったのでフランス語をフランス語のみで教わりましたが、どの先生からも「日本語で考えてはダメ、フランス語で考えなさい」と注意されました。つい母国語で考えてそれを翻訳して当てはめようとしてしまいますが、語学はただ覚えるものではなく、考え方やその言葉の捉え方を学ぶことも大切だと思います。なぜその表現をするのか、どうやって相手に伝えるかを学んでいく中で、学習している言葉を使って考える癖を身につけることは後々役に立っていくことを私は学んできました。それはどの言語にも言えることですので、大変だけど学習者さんにもぜひじっくりと日本語に向き合ってもらいたいと思っています。

もうひとつ試していることは、教科書に出てこない言葉をよく教えています。関連する話題が出てきた時などに挟み込むのですが、例えば、映える、やばい、ミスった、推し、ポイ活、ながらスマホ、置き配、ママ友などなどたくさんあります。若者言葉や流行り言葉もありますが日本人が普通に会話で使ったり、アニメやテレビの中に出てくる言葉を知りたいという方も多いです。自分は使わないけど子どもが学校で覚えてきたのはそれだったのねといわれたり、なぜ本来の意味と違うのかと質問される言葉もあります。和製英語やオノマトペも教科書にはあま

り出てきませんが「サインする」「クレーム」「お腹ペコペコ」「もうクタクタ」など、日常会話に出てくる言葉はたくさんあるので、状況にあった言葉を教えることで学習者さんに会話を楽しんでもらえらと思っています。

☆・・・☆・・・☆・・・☆

～第110回勉強会・特別講習会報告～

「音声講習会Ⅱ～音声指導の方法(2)」

研修部会 上嶋 康子

昨年12月7日(土)に「音声講習会Ⅱ」が行われました。前回(11月9日・12月号を参照)の続きで、同じく元東京外国語大学非常勤講師の中村則子先生に教えていただきました。参加者は25名でした。

I スピーチ指導

どのように休むかということ。意識せずそのまま読む文とポーズを入れて読む文では全然違う。

ポーズ(区切り)の入れ方

●句読点「、」「／」は心の中で1拍休み、「。」は2拍休み。

●列挙文「と」「や」の後(例: ボルシチや／ピロシキなど)。

●接続詞の後(例: しかし／それで／では／)

●「は」の後(例: 私が言いたいのは／そういうことじゃないんです)。

●強調したいところの前後(例: 締め切りは／今週じゃなくて／来週の／土曜日です)。

への字=平叙文の基本イントネーション

●区切りの前はイントネーションを上げて少し弱く言う。

●助詞は内容度が低いので強調しない。最近、語尾を上げる話し方が多いが大人としての話し方は最後が下がる。

以下は先生からの紹介です。

[OJAD オンライン日本語アクセント辞書](#)(インター

ネットで使える辞書で無料です！)

[韻律読み上げチュータスズキクン](#)

例：「ボランティアで／日本語を教えています。」と入力（必ず「／」を入力のこと）すると、フレーズがへの字として現れ発音してくれますし、アクセントを知ることができます。

教科書別にも発音が載っています。是非一度検索して試してみてください！

Ⅱ 単音

単音とは言葉の明瞭性に関わっており清音と濁音があります。学習者の発音基準は一人ひとり違うので、私たちがその基準を否定せず、学習者本人が問題を意識し自己修正することが大切になります。それには私たち日本人の発音が手本になります。そこで、私たちも口腔断面図やテキストを用いながら先生のご指導を受けて実践してみました。

まず母音は、顎の動き、喉の震え方によって発声されます。母音はとても大事で、母音がはっきりしないと発音が曖昧になります。その時は母音の練習をすると良いそうです。（役者さんは母音の発声練習を大事にし意識して練習するそうです。そうすると遠くまで声が届くのだそうです。）

次に子音です。口の中でどこに舌をつけるか（調音点→口腔断面図がわかりやすい）、それによってどんな種類（調音法→①摩擦音・さ行ざ行は行、②破裂（閉鎖）音・ぱ行ば行か行が行、③破擦音（破裂音＋摩擦音）・た行だ行、④鼻音、⑤弾き音・ら行）になるのかを確認しました。また、中国語、ベトナム語、韓国語、タイ語話者への指導案、指導法も教えていただきました。

先生は、発音は母語話者だからこそ気付いていないことがあります。発音学習を学習者と一緒に楽しめるといいですね、と仰っていました。

当日の資料には、参考文献、インターネットサイト、教材紹介、口腔断面図が載っています。必要な方は研修部会までお問い合わせください。

「おまえは詩人だ」

金曜夜ボランティア 和田 泰弘

太宰治の妻、津島美知子の著書、『回想の太宰治』にこんな一節があります。

「～この年のくれ、私はそのススキの穂を束ねて煤払いをしようと思いつき、天井を一撫でしたら綿のような毛のようなものが部屋中に散乱し失敗に終わり、太宰は見えていて、ばかとは言わずにお前は詩人だ、などと批評した。」。気障といえば気障なセリフですが、ものは言いようで、失敗を語らず、瞬時にやさしさで応えたのは太宰の、作家としての面目躍如といったところでしょうか。

ものごとを肯定する視点からことばを選ぶと、相手も場も和むことがあります。人の家で料理を振舞われ、その味が舌に合わなかったとき、「これまずいね」とストレートには言えないですね。味が薄ければ「上品な味ですね」、濃ければ「白いご飯が進みそう」、苦みや渋みが勝っていたら「体によさそう」、食感が固すぎたら「歯によさそう」とか、ものは言いようで局面ががらりと変わります。

本音と建前を使い分ける京都人の気質は「いけず（意地悪）」文化として有名です。「お子さん、ピアノ上手にならりましたね」と言われたら、それは、騒音で迷惑しているということで、真に受けたら面倒なことになります。

小4の孫娘が、最近よく我が家の台所に立ちます。料理を手伝ってくれるのかと思いきや、理科の実験まがいのような妙な調理をします。先日など、たまご、牛乳、きな粉、粉チーズ、砂糖、ジュースなどを混ぜ、本人も目指すゴールが見えていない不可解なものを楽しそうに作っていました。傍にいた連れ合いがそれを味見し、「芸術的な味だね！」と声をかけると、孫は出来たての「？」を口に入れ満足気にしていました。その後、焼き砂糖、卵焼き、スープなどなど、レパートリーは着々と増えつつあります。

